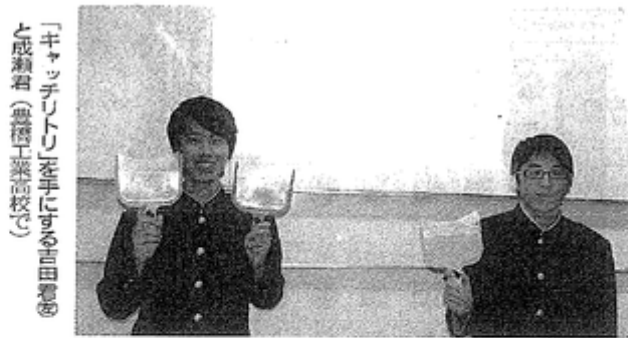


# 第15回全国高等学校ビジネスアイデア甲子園 グランプリ受賞 愛知県立豊橋工業高等学校が新聞に掲載されました。

2016/12/20

第15回全国高等学校ビジネスアイデア甲子園グランプリを受賞した愛知県立豊橋工業高等学校が新聞に掲載されています。

東愛知新聞2016年（平成28年）12月16日付社会面掲載



「キャッチリトリ」を手にする吉田君と成瀬君（豊橋工業高校で）

## あす全国高校ビジネスアイデア甲子園 力強く「絶対優勝を」

豊橋工高のプレゼン練習 高まる熱気  
吉田君と成瀬君

17日に大阪商業大で開かれる「全国高校ビジネスアイデア甲子園」に、豊橋工業高校電子機械科3年の吉田純君（18）と成瀬三志郎君（同）が出場する。同校からの出場は5年連続。本書に向け、2人はプレゼンテーションの練習に余念がない。（中嶋真世）

全国の高校生が新しい商品やサービスのアイデアを競う大会で、今年は8483作品の応募があった。書類審査を経て、全国大会（甲子園）出場6作品の1つに

豊橋工業高が選ばれた。2人が考案した「キャッチリトリ」は、ちりとりでゴミを集める際、取りこぼしをなくしたいとの思いから生まれた

作品。今年6月末から構想に取り掛かり、ちりとりでゴミを取りづらなのは取り口の厚みが原因だと考え、フィルムを貼って薄くするアイデアに行き着いた。

さらに最適なフィルムの形状を模索するため夏休みに試行錯誤を重ね、最適な曲線を導き出した。

大金目は5分間でプレゼンテーションを行う。時間内に作品がいかに優れているかを伝えるため、2人は練習を繰り返してきた。

本書が直前に迫り、吉田君は「絶対運朝したい」、成瀬君は「張って練習したので出場するからには絶対優勝します」と力強く語った。

織圭選手の活躍で「アニスへの関心が高まっている」として「アニス」は市民にまたこれからのアニスを始める子どもにも持ちよって楽しんでもらえる団体を目指してきた」と活動を振り返った。

佐原市長は同協会をたたえ、選手強化と健康寿命のまっすぐりへの協力を求めた。（中嶋真世）

東愛知新聞  
2016年（平成28年）12月16日（金）付  
10面社会掲載

※この記事・写真等は、東愛知新聞社の許諾を得て転載しています

東日新聞2016年（平成28年）12月16日付社会面掲載

県立豊橋工業高校電子機械科3年の吉田純君と成瀬三志郎君の2人が、17日に大阪府内で開催される「第15回全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」（経済産業省など後援）の最終審査に出場する。同校からの最終審査出場は5年連続の快挙、初の連覇にも期待がかかる。

（千葉敬也）

### 全国高校ビジネスアイデア甲子園



豊橋工業から5年連続最終審査出場

## 吉田君と成瀬君が考案

# お掃除革命「キャッチリトリ」

コンテストは全国の高校生を対象で、問題解決能力の育成やキャリア教育などとして実施。今年度は総数で8489作品の応募があり、書類選考で選ばれた6作品のみが最終審査に出場する。2人が考案したのは、ちり取りの先端を改造したアイデア作品「キャッチリトリ」。ちり取りを使う際、ゴミやほこりの取りこぼしが発生してしまうことに着目。原因がちり取りの先端形状に見られる厚みや地面との隙間などにあるとし、先端へ曲線状に加工した薄

「キャッチリトリ」を紹介する吉田君と成瀬君  
豊橋工業高校で

い透明フィルム（0・3mm）を取り付けた。ちり取りと接点の相対角度や接触で溜まる塵埃などを考えながら、試作品の検証実験を繰り返して、取りこぼしをなくす最適な形状を合理的に導き出し完成させた。

2人は家庭や職場など掃除場面での活躍を期待しており、本書では「お掃除革命」としてプレゼンする。担当の小久保寿也教諭は「専門性を生かして、工業高校らしく仕上がった」と完成度を評価している。

本書はアイデアの独創性や企画力、表現力などが審査され、2人は連覇がかかっている。後輩に流れをつなげるためにもグランプリを目指したいと意気込みを語った。

同大会では15年の記念大会となり、同校が2度グランプリを受賞しているなど過去出場成績が評価され、起業教育特別賞を受賞することが決まっているという。

東日新聞  
2016年12月16日（金）付  
11面社会掲載